

【クラスの様子】 4歳児 25名（要配慮児7名）

0歳児クラスから通っている子、3歳児クラスから入園した子、4歳児クラスから入園した子など園生活や経験に個人差も大きくひとつの遊びを進めていく中でも難しさを感じる。また、要配慮児が多く個々対応に迫られる毎日であるがしっかり身体を動かして遊ぶ時間の保証とリトミックやしっぽとりなどを継続して取り組んでいる。

（課題・問題点）・集中して話を聞くことが難しい。

- ・個々に思いが強すぎてルールのある遊びが成立しない。
- ・自分の思いを言葉で伝えることが難しい。

【キーパーソン】

A…ADHDの傾向があり衝動性が強く、落ち着きがない。5月に民間園から転入してきた時は刺激に弱く常に部屋から飛び出していき、友達の使っている物を取り上げたり壊したりしていた。1歳児クラスから民間園に通っていたようだが座って食べることが出来ず箸も使えず手づかみだった。手先は不器用だが運動神経は良い。

B…発達障害の疑いがあり自分の思い、自分のペースが強い。その為、クラスの生活や遊びに間に合わないことも多く友達ともトラブルばかり。

C…あそび進めて行く中でアイデアを出したり話し合いでも発言が多くクラスの子どもたちからも慕われているが良いとき悪いときの差が大きい。

※A、Bは周りの子から受け入れてもらいにくく活動にも遅れがちなので、まずは生活面で遅れないようにサポートし活動に間に合わせる。活動の中で友達と関わる楽しさが感じられるようにしていく。

※Cはクラスに与える影響が大きいので良いこと悪いことを考えられるようにしていく。

【春から取り組んできたしっぽとり】

新入児は鬼ごっこの経験も無く鬼にタッチされただけでは分かりにくいので目で見てわかるようしっぽをつけて取る楽しさ、逃げ切れた楽しさを感じられるようにした。始めた頃はマテマテあそびの感覚の子や一方向にグルグル走ることが楽しいだけの子もいたが繰り返し遊んでいくことで「しっぽ取らるのイヤ」「しっぽ取れないから鬼したくない」と気持ちを崩してしまう子もいた。そこで、追いかける方か追いかけられる方か自分で選べるようにしたり、子どもたちとしっぽの数を決めたりして遊ぶことにした。意図的に友達の姿を見る機会を作ることによって「〇〇くん逃げ切れたな」「〇〇ちゃん取られても泣かへんかったな」と応援してもらったり、頑張ったことを認めてもらうことで「ちょっと楽しくなってきた」「やってみようかな」と気持ちに変化が出てきた。グループ対抗で遊ぶことで個人ではしっぽが取れない子も勝って嬉しい気持ちを感じられたり、友達を意識し関わりが深まっていったことも良かった。“追う側” “追われる側”と2つの視点をねらいによってどこを切り取って子どもたちに広げていくかということに難しさを感じたがルールをクラス集団に合わせて工夫していく事で参加しやすい環境を作り、みんなで楽しめる活動にしていくことの大切さを感じた。

前半期は、「先生、鬼して～」と保育者が入らないと楽しめなかったしっぽとりだが今では自由遊びの時間に子ども達だけで鬼の人数を相談したり、ルールを考えたりして楽しんでいる。

Aは、走ることは楽しめるがルールの理解が難しく話を聞く場にはなかなか座って居られない姿だったが、グループで取り組む中で友達から呼んでもらい参加することが楽しくなり少しずつ話を聞く場にも座っていられるようになっていった。

Bは、追いかけるのはしたくないとやらず、追いかけられる側なら参加した。でも、しっぽを取られると怒って泣いて気持ちを崩す事が多かった。友達からも認めてもらいにくかったので担任がBの姿を見逃さず頑張っていたことなどを認めていくことで遊びに参加することが楽しくなってきた。

【運動会のとりくみ】

運動会では、かけっこ・バルーン・体育あそびに取り組んだ。体育あそびの『オリンピックごっこ』に取り組むに当たり共通のイメージが持てるようにオリンピックの写真が載った雑誌や『パンダオリンピックたいそう』の絵本を見ました。それを見て子どもたちは色々なスポーツや金メダルに憧れ、自由遊びの時間に色々な競技をセッティングして興味のある物から取り組んでいきました。アーチェリー・バドミントン・柔道・鉄棒・バスケットボール・ハンマー投げ・ロッククライミング・ウエイトリフティングなどを楽しみました。ただども、“できる・できない”がわる 4 歳児なので「出来ないからやりたくない」と気持ちを崩してしまったりする子もいた。まずは競技によって様々な身体の使い方を知ることや楽しむことにねらいをおいて遊んでいき、次に出来た手応えが目で見えて分かるように手作りの絵本にシールを貼るようにした。挑戦した物や出来た物にシールを貼ることで自信もついて好きな物や得意な物だけでなく友達と一緒に挑戦する姿も出てきました。しかし、自分が出来ると満足して友達の姿に目を向けることが難しかったので体操の団体競技のイメージで鉄棒はグループで取り組むことにした。そして、みんなで金メダルを目指して頑張ろうと気持ちを高めてながら取り組むことで応援したり、教え合ったりする姿が出てきて運動会当日は一人一人が精一杯の力を発揮しみんなで金メダルをもらい大きな達成感を感じることが出来た。この取り組みを通して感じた事は、「やってみたい」と思えるあそびを設定し出来るようになるためにはどうしたらよいかをシンプルに伝え、繰り返し遊びながら自信を積み重ねていくことの大切さ。そして、自分が満たされてこそ周りにも目を向けられるので一人一人の“できた” “楽しかった”の思いに共感し友達の姿のどこに注目するのかを伝え全体の中で確認することで共感や教え合いにつながっていくのだと実感しました。

【生活面では】

生活面でもグループでの活動を意識してきた。給食の準備ではグループの友達と机を出す、拭く、パーテーションを置く。給食後は、ほうき・雑巾・靴箱掃除をグループごとに分担して取り組んでいる。グループで取り組むことでいつも食べるのが遅い子に「頑張って食べてね」と声を掛けたり、子ども同士での声かけも増え協力すると言うことがどういう事なのかがわかってきたようだった。AやBが自分のペースで行動していても言っても無駄と周りの子達が声をかけない姿があったが自分達で声を掛けないと困るのは自分達なんだと伝えることで周りの子達も伝える力がついていった。もちろんAとBにも周りの子達の思いを伝え自分のペースではなく周りを見て行動するよう伝えた。

【発表会に向けて】

発表会に向けて『桃太郎』の劇となわあそびに取り組んでいる。絵本の読み聞かせだけでなくじっくり絵を見て表情や情景から読み取ったことを言葉や身体で表現して遊んでいきながら場面をつないで劇づくりをしています。担任が決まった事を教えるのではなく、台本も無く子どもたちから出てきた言葉を書き留め構図を作成し、動きに音を付けたり簡単な歌を作って劇の構成をしていくので話の筋からずれない限り間違いもないという事は子どもたちが楽しめる要因なのだと思います。身振り・表現を楽しみ、役になりきってごっこあそびを楽しめるのは幼児期ならではの感覚だと思います。また、遊んでいく中で大切にしているのは実体験です。餅つき会ではチンカラで薪を燃やして湯を沸かしたり、その為に近くの山に散歩に出かけ木を拾ってきたり、毎日の雑巾がけではタライに洗濯板を置いて雑巾を洗っています。ここで経験したことで昔の生活を感じ、具体物が無くてもあるつもりで動きの表現が生まれます。役も一役一人ではなく自分のやりたい役を自分で選ぶことを大切にしています。自分なりにその役のつもりになってごっこあそびをしていく中で絵本には書かれていない言葉だけど自分ならこう言うかなと感じたことを言葉にしたり私たちのクラスらしい劇に仕上がってきています。

縄遊びでは、クリスマス会でサンタさんにもらった縄跳びを一人一人が好きな跳び方をします。そして、大縄跳びでは『大波小波』を跳びます。縄を回して跳ぶと言うことだけ知らせ前跳び・後ろ跳び・ケンケン跳び・駆け足跳び・走り縄跳びなど何から始めてもよしという取り組み方をしています。ひとつ上の学年が運動会で縄跳びに取り組んだり、普段から遊んでいた姿を見てきたので憧れの気持ちからどんどん取り組んで上達していく子もいます。ですが、そんな子ばかりではないので担任が回して一緒に跳ぶことから始め、楽しいと感じて自分から取り組むようになった子もいます。もうすぐ発表会だというのに全く取り組まない子もいますが運動会の時の関わりのようにグループの友達が教えてくれたりもします。「失敗してもいいやん。やらない方がかっこ悪いで。」と出来ない事を攻める子はなくみんなで頑張ってるところを見て欲しいという思いで取り組んでいます。

※キーパーソンだけでなく一人一人の生活の力を付けつつ、グループ・小集団での取り組みを意識的にすることで思いのぶつかり合い、相手を理解する・認め合うことも大切にしてきました。まだ、言葉で上手く伝えられないどころか自分の思いも分からない子もいる中で担任が一人一人のことをしっかり掴み思いを代弁したり、子ども同士をつないでいくことで少しずつ変化し成長してきたと感じています。